



《公開シンポジウム》

「こどもまんなか」の地域づくりと地域福祉実践

開催趣旨

わが国の少子化傾向は約半世紀に及んでおり、超少子化は、日本社会の持続可能性にとって最大のリスクとなっている。その大きな要因は、こどもや若者、また子育て世代の声を十分に聴き、そのニーズを明らかにし、十分な施策や実践として反映できていなかったからではないだろうか。地域福祉の実践や研究においてもマジョリティである高齢者を優先してこなかったであろうか。今年度から、政府による「次元の異なる少子化対策」による「こども・子育て支援加速化プラン」が開始されるが、果たして脱少子化に効果があるのかについて、今後十分に検証していく必要がある。

2023(令和5)年4月に施行されたこども基本法の基本理念として、全てのこどもについて、その年齢に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会を確保されること、また、全てのこどもについて、その年齢に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されることがあげられている。

本シンポジウムでは、地域におけるこどもや子育てのニーズをくみ取り、地域ぐるみで先進的な取り組みを行っている自治体、団体の実践から学び、今後の「こどもまんなか」の地域づくりに向けた地域福祉実践のあり方を探ることとしたい。

- 1.日時: 2024 年5月25日(土)
14 時 00 分開会～16 時 45 閉会 (受付 13 時 30 分開始)
- 2.開催方式: 対面参加とZOOMのオンラインによるハイブリッドで行います
- 3.プログラム: シンポジウム形式で行います

シンポジスト:

「まほうのほうき」 代表 沼崎 道子 氏

「まほうのほうき」は、コロナ禍における生活困窮者向けのフード・パントリーから、JR 八王子駅南口徒歩5分の所に駄菓子屋と地域活動の拠点「Yottette」をオープン。元教員、保育士、看護師、福祉関係者が中心となって運営をしている。そこでは、子どもの居場所「キッズサロン」

として、体験教室、子ども服やおもちゃのリユース、フードドライブ、住民主体による高齢者への生活支援サービスなど、地域のこどもや住民のニーズに応じた多彩な活動を展開している。

「NPO法人 親がめ」理事長

塚原 泉 氏

NPO法人親がめは、横浜市神奈川区において、地域で活動している個人・グループ、社会福祉協議会などの関連機関及び行政と連携し、子育てに関するネットワークを創る活動を通し、こどもが生き生きと過ごし、育ち合う地域づくりに取り組んでいる。「すくすくかめっこ・親子のたまり場」は、町内会館、空き店舗、プレイパークなどを活用し、原則月1回ノンプログラムによる交流活動は、区内47ヶ所に広がり、20年以上継続されている。

岡山県奈義町 総務課課長

森安 栄次 氏

2019年に合計特殊出生率2.95を達成し、全国的に注目されている奈義町だが、2005年には1.41と低迷。その後、行政内部や議会で子育て支援の必要性を協議し、2012年に「奈義町子育て応援宣言」を公表する。以来、独自の子育て支援策を展開するために必要な財源を捻出し、町独自事業として、子育て世帯のための住宅確保、在宅育児支援手当、高校生の就学支援手当、医療費の高校生までの無料化、オムツのサブスク、子育て支援拠点「なぎチャイルドホーム」など、子育て世帯のきめ細かいニーズに寄り添った様々な施策の展開により成果をあげている。

コーディネーター：宮城 孝(日本地域福祉研究所理事長,法政大学現代福祉学部教授)

コメンテーター：原田 正樹(日本地域福祉研究所副理事長,日本福祉大学教授,学長)

4.会場： 大正大学 5号館 5階 552教室
東京都豊島区西巣鴨 3-20-1(都営三田線西巣鴨駅徒歩2分)

5.主催： 特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所

6.参加費： 正会員(所員):2,000円、一般:3,000円、学生・院生:1,000円
*事前振込をお願いします。

7.申込方法： Googleフォームよりお申し込み下さい。メールにて振込先と振り込み期日を送付させていただきます。
URL: <https://forms.gle/VtGie8C5TTTQ31Qs5>

8.定員： 150名(先着順)

